

# 吉備団子の由来

神武天皇御東征の途次二年間の安らぎと定められた吉備の国高島宮の裏の方にある一本の古木の蔭で、一夜の中に鳥さ文余に及び燦然として輝きわたり、聖妻と祝ぐ様でありました。里人はこれを採りて団子となし、帝に献上しました。

これが黄族団子(きびだんご)のはじまりであります。崇神天皇の十七年吉備津彦命は四道將軍となり吉備の国に向わされました。行路幾百里やがて吉備の国妹尾明神岬にお着きになりました。

土地の漁師の御威光、女は嬉しきまに稲黍で作った団子を献上して、軍旅をお慰め申しました。これも稲黍団子(きびだんご)と称します。吉備津彦命は武勇に徳を称せられた方で、巷間童話日本の吉備団子と桃太郎の起源であると伝えられて居ります。

徳川時代寛永の頃備前岡山旭川のはらに住む竹蕃なる人風雅の道を好み殊に茶道に精通し茶菓子を就いては種々研鑽苦心して居りました。遂に備前特産の糯米と原料とし高尚佳味なる珍菓を創製する事が出来ましたので藩主池田公に献上致しました。公は非常に喜氣に召され吉備津国の名産に因りて吉備団子と御命名尚お広く世に振めよと御せられました。これが今の世に伝わる吉備団子(きびだんご)であります。

吉備団子製造本家  
岡山市驛前中筋  
山脇山月堂 取

電話② 二一五六番

